

事業者排出量削減計画書（新規・変更）

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	〒600-8688 京都市下京区四条通烏丸東入				
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	宝酒造株式会社 代表取締役社長 大官 久				
事業者の主たる業種	酒類・食品製造販売業				
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））				
計画期間	平成20年4月～平成23年3月				
基本方針	中期経営計画と連動したISO環境目標を設定してCO2削減等の環境活動を推進する				
推進体制	ISO14001システムにより全社および各サイトごとに責任者をおき環境活動を推進				
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001			
	適用範囲	本社、伏見工場、京滋北陸支社			
	取得年月日	2005年1月宝グループ統合取得			
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	計画内容		
	平成20年度	伏見工場	排水処理のプロアの改良、廃温水、熱回収装置の導入、部分負荷用ボイラーの導入等の省エネ設備の導入を行う		
	平成20-22年度	本社	時間外冷暖房の削減、不要な蛍光灯の撤去など照明の適正化を行う。		
	平成20-22年度	京滋北陸支社	アイドリングストップ等省エネ運転、公共交通機関の利用によるセールカーからのCO2の削減		
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	
	A 事業所等排出区分	15,300.0 t	15,419.2 t	0.8 %	
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	
	C その他排出区分	100.1 t	100.1 t	0.0 %	
	排出合計	15,400.1 t	15,519.3 t	0.8 %	
目標設定の考え方	ISO14001の目標項目をCO2の排出とリンクする目標としてCO2を削減する。 販売量見込み 4.9%増に対し総量では0.8%増に抑える。				
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）
	伏見工場	二酸化炭素換算 （生産数量）	13.800 t/KL	13.300 t/KL	-3.6 %
	本社	二酸化炭素換算 （延床面積）	75.100 kg/m3	73.000 kg/m3	-2.8 %
	京滋北陸支社	二酸化炭素換算 （売上金額）	12.100 kg/百万円	11.700 kg/百万円	-3.3 %
原単位の指標及び計画数値設定の考え方	それぞれの事業所の事業内容を反映した分母とした。 3事業所とも原単位3%以上の改善を目指す。				
地球温暖化対策貢献量	対策等の区分	目標年度（計画）			
		取組量等		（二酸化炭素換算）	
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	市内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t
削減量等合計				t	
地球温暖化対策	ペロタクシー、芝生スクール京都等のCO2削減に貢献する京都発のNPOへの協賛等の支援を行う。				
特記事項					
地球温暖化対策に資する社会貢献活動					
特記事項					

注1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。

2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。

3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。

4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。

5 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。